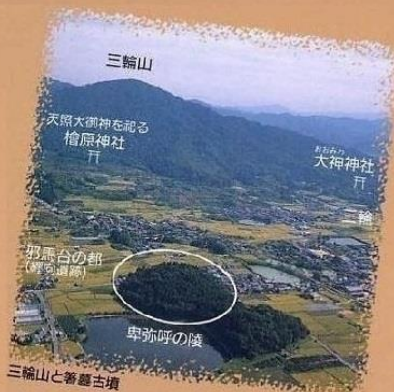


やま と 邪馬台 三国志 下

「歴史物語編」の物語を抜粋し編集



高田康利著

神武は大和朝廷の開祖
天照大御神は卑弥呼

邪馬台国史が見えた 邪馬台国時代の歴史を物語に
中国の三国志、日本の戦国時代・幕末をはるかに凌駕する世界に誇れる歴史です。

前五世紀から倭国大乱まで、那珂つ国と天之国、オロチ巖之国、倭国、豊葦原中つ国、伊都国、倭奴国の王朝が立て続けに興った。

二世紀後半、伊弉諾の御世、畿内勢が謀反して大乱が勃発した。倭奴国王朝は瓦解し、日向に天照大御神（日神）を仰ぐ高天、大倭に天照大神（日神の婿養子）率いる邪馬台国に分裂した。

二二〇年代、日神は大倭に遷座して、倭の女王ヒミコに共立された。

三世紀後半、日向から東征した磐余彦（神武）が火明鏡速日（火瓊瓊杵の児、海幸彦）の建てた日本朝を倒し、橿原に大和朝廷を開いた。

邪馬台国（瑞穂の厳之国王朝・天（厳）王朝・日本朝）、南九州天（天）之國・高天系（日限・日前・和）の対立

邪馬台（やまと）国

三輪氏、豊葦原水穗国らが連合し、豊受皇太神を天照大神に擁立

オロチ厳之国王朝の再現

倭（奴）国王朝再現

倭（奴）国王朝再現

倭（奴）国王朝再興

大倭 瑞穂の厳之国王朝

天（厳）之國（倭）王朝 ↓ 日本（やまと）王朝

物部氏

十大倭国

十豊国 + 葦原中つ国

十大日本国（大倭国）

大和朝廷

180年代中頃

210年代前半

220年代前半

260年頃

301年

倭

乱 大 国

水天神天照大神 / 饒速日（初代垂仁） / 天（天）火（明）（二代垂仁） / 火（明）饒速日（三代垂仁）

〔都〕唐古

日向 纏向上之宮 火火出見 纏向珠城宮

景行・仲哀の熊襲征伐 樞原宮

和と大倭国が樹立

〔天宮〕糸島平野怡土

倭女王 ヒコ（日神）

2 壹鋳入姫 3 十神功 5 倭迹迹日百襲姫

倭奴（ヤマト）国王朝

〔倭国（高天）+ 豊葦原中つ国 + 大倭国 + 十日限〕

伊弉諾の南遷

天孫饒速日・日神の大倭遷座

海幸彦の大倭降臨

神武（磐余彦）東征

天（天）之國・高天 ↓ 日限 ↓ 日前（投馬国、狗奴国） ↓ 和国

素戔嗚豊葦原中つ国 建立し失敗。大己貴葦原中つ国 再建 ↓ 天神の御子に国譲り ↓ 大倭に移る

日向 天（天）之國・高天

天孫の吾田降臨

火（明）火出見（山幸彦の日向天降り） 山幸彦・海幸彦の争い

南九州

日限（日前、ひのくま） ↓ 日前（ひのまえ） ↓ 和（ヤマト）王朝

180年代後半

220年代前半

250年代

280年代

日神

皇孫火瓊瓊杵

火（明）火出見

磐余彦

〔都〕天宮高千穂宮

笠沙宮（加世田市）西都（西都市） / 高城宮・川内宮（川内市）

高千穂宮（都城市）

高千穂宮（宮崎市） / 岡田宮（高島宮）

本書の王系譜 4

◇大倭(おおよまと)国 / 大日本(おおよまと)国 / 和国と共に大和朝廷樹立

孝安 — 孝靈

孝元

開化 — 御間城入彦五十瓊殖(崇神)

彦狭嶋

彦太忍信 — 大足彦(崇神、南海道・東山道都督、倭王) — 竹内宿禰

倭迹迹日百襲姫

(倭迹迹姫襲名、五代倭女王)

吉備津彦

(五十狭芹彦) ↓ 西道(山陽道) 將軍

稚武彦

稻日大郎姫 — 日本武

◇邪馬台(やまと)国

敵之国王朝 / 天(敵)之国王朝(倭国) / 日本(やまと)王朝

朝廷の軍事筆頭職・物部氏

饒速日(火天神天鹿兒山の長子、初代垂仁) — 味間見(物部氏遠祖)

狭穗姫

眷津別(火火出見) … 眷津別(火折) — 仲哀 — 眷田別(氣比大神)

豊城入彦(東山道都督)

彦狭嶋

(倭倭家入籍、播磨海道都督、西南藩屏將軍)

豊鍬入姫(二代倭女王)

天香語山(天鹿兒山襲名、尾張氏の祖、東海道都督、高倉下)

天香山(尾張家遠祖)

可美真手(味間見襲名) ↓ 物部氏の祖

天火明(二代垂仁)

火明 天明饒速日(三代垂仁、日本大物主大神)

大田田根子 ↓ 神君・鴨君の祖

彦火明

天照國照彦火明饒速日(現人神の天神)

「けだし神か」「吾は、現人神の子なり」

日葉酢姫ら五姉妹

倭姫

(倭倭家入籍、大足彦)

日本武

◇高天 ↓ 日前・日前(妻国、投馬国、熊襲) / 和(ヤマト)国

大和朝廷(三〇一年樹立)

火瓊瓊杵

火火出見(山幸彦)

磐余彦

(神武) … 素神 … 心神

火折 ↓ 眷津別

大和朝廷の開祖

神功

八幡(心神)

火照 ↓ 海幸彦 ↓ 火明 ↓ 火明饒速日

(四代倭女王、仲哀皇后)

火スセリ(海幸彦襲名) ↓ 吾田隼人らの祖

本書の王系譜5

〔大日本国の系譜〕

綏靖 — ○ — ○ — ○ — 孝安

孝靈

孝元

開化

崇神

〔邪馬台国の系譜〕

倭彦

稚武彦

稲日大郎姫

日本武

山王、牛頭天王、大穴持、大國主、

天照皇太神、月読、

熊野櫛御氣野、

倭大物主、大蛇、豊受大神

豊受皇太神 (天照大神)

高皇産靈

大日靈貴

倭女王

1ヒミコ

分身||瀬織津姫 (天照大御神荒魂、撞賢木蔽之御魂天疎向津媛) ... 2豊鍬入姫 ... 3/4神功 ... 5倭 (迹迹) 姫

向津姫

日神の天照大御神

分身||稚日女 (稚産靈)

〔高天系の系譜〕

大倭豊秋津島姫

高皇産靈の養女

万幡豊秋津姫

天照大神の養子

思兼

木花開耶姫

火折↓大倭に降臨し普津別と名のる

火スセリ↓海幸彦襲名

彦狭嶋

吉備津彦

倭姫

倭迹迹日百襲姫 (倭迹迹姫、三代女王)

彦太忍信... 大足彦 (景行)

三炊屋姫

天道姫

可美真手 (物部氏の祖)

天香語山 (高倉下)

大倭家移籍

景行

倭姫 (大倭家移籍)

影姫

武内宿禰

彦湯産隅

狭穂彦

ら五姉妹

普津別 (火火出見)

豊城入彦・豊鍬入姫 (二代女王)

天孫降臨時の若 (稚)

日女役||豊受姫 (稚産靈の娘)

火照 (海幸彦、火明饒速日として大倭降臨)

火火出見 (山幸彦、天火明の兄・普津別)

火折↓大倭に降臨し普津別と名のる

火スセリ↓海幸彦襲名

彦太忍信... 大足彦 (景行)

彦太忍信... 大足彦 (景行)

彦太忍信... 大足彦 (景行)

彦太忍信... 大足彦 (景行)

本書の王系譜〔海部氏系図、尾張氏系譜、「記紀」系譜の合成系図〕6

184年(大乱勃発)

210~230年

250~270年

285~300年過ぎ

「けだし神の子か」
「吾は、現人神」

【合成系図】

猿田彦(佐太彦)

日子坐王

御炊屋姫

大足彦(大倭家移籍、彦太忍信襲名、景行)

稲日大郎姫

日本武

(若くして他界)

日子坐王

日葉酢姫ら五姉妹

遠津年魚眼妙媛?

豊城入彦(豊国移籍、五代女王)

影姫

武内宿禰

天羽羽

彦火明、二代垂仁

天香山(鹿兒山襲名、尾張氏遠祖)

三炊屋姫(御炊屋姫襲名)

氣長足姫(四代女王)

神功

氣比大神(誉田別)

火天神天鹿兒山

狭穗姫

誉津別(火火出見)...

天香山(鹿兒山襲名、尾張氏遠祖)

可美真手(味間見襲名)

天香山(尾張氏の祖)

天村雲

水天神天照大神

火明饒速日(三代垂仁)

天香山(鹿兒山襲名、尾張氏遠祖)

天香山襲名、高倉下

天香山襲名、高倉下

天香山襲名、高倉下

天香山襲名、高倉下

天香山襲名、高倉下

妃瀬織津姫(天照大神荒魂) ↓ 廣田神社祭神

※ ↓ 実家丹後海部家に戻り豊受大神を祭祀

分身待遇 火天神妃豊受姫 ↓ 天孫と共に降臨 ※

↓ 丹生都比売神社祭神

分身稚日女(豊受姫の母、稚産靈) ↓ 丹生都比売

日神 — 忍穗耳 — 火瓊瓊杵(天孫)

火照(海幸彦、火明)

活玉依比売

神の子

磐余彦(神武)

應神

天照大御神

木花開耶姫

火折・火火出見(山幸彦)

火折・火火出見(山幸彦)

火折・火火出見(山幸彦)

火折・火火出見(山幸彦)

火折・火火出見(山幸彦)

火折・火火出見(山幸彦)

伊弉諾

大倭に遷座

伊弉冉

倭女王

1 ヒミコ (撞賢木蔽之御魂天疎向津媛)

2 トヨ (撞賢木蔽之御魂天疎向津媛)

3 / 4 神功 (撞賢木蔽之御魂天疎向津媛)

5 倭 (迹迹) 姫

2 豊鍬入姫

3 倭迹迹日百襲姫

始馭天下天皇

誉田別と語る ↓ 応神

※水天神天照大神 || マガダ国大王、山王、牛頭天王、神皇産靈、大穴持、佐太大神、大国主、月読命、熊野櫛御氣野、御饌津神、豊受(天照)皇太神、天御中主、大蛇、天叢雲、倭大物主、所造天下大穴持、豊受大神、熊野権現

倭の女王ヒミコ（撞賢木蔽之御魂天疎向津媛）の一生

倭奴国王朝六代女系天神の宗女として誕生→**向津姫**、**若日女**→**天照大御神**、**日神**→倭の女王**ヒミコ**→**天照大御神**

1 **倭奴国**（倭十豊葦原中つ国）**王朝六代女系天神**、**天之尾羽張神**の時代（一六〇年前後〜一八〇年代前半）

一六五年頃、六代女系天神の宗女として怡土の天宮（天上の都）で誕生→**向津姫**、**天之国**の**若日女**

※豊受（天照）皇太神（熊野櫛御氣野、出雲では山王、牛頭天王、大穴持、大國主）→（向津姫に婿入り）

婿入前の彼は、伊雑宮の巫女玉柱屋姫（瀬織津姫？）、尾張海部家の姫らを妃に娶り、天鹿見山をこしらえた

一八〇年代中頃、三輪氏らと組んで謀反し、邪馬台国（瑞穂の蔽之國王朝）→**ヒミコ**の**天**（蔽）之國王朝（倭）

↓**火明鏡速日の日本朝**に発展）を興して**天叢雲**、**天照大神**、**水天神**、**倭大物主**、**大蛇**と語る↓大乱に発展

※大乱時、**天照大神**妃で分身の**瀬織津姫**（**天照大神**荒魂）↓**広田国**（西宮市）に布陣して合戦を采配

2 **王朝瓦解後**、**高千穂郷に逃れた高天**（日高+天_之國、倭と語れず）**期**（一八〇年代後半〜二二〇年代前半）

天_之國の**天宮**、**高千穂宮**では、**天照大御神**、**日神**（七代女系天神）（**齡二十代前半で、日神に即位**）

※稚産靈↓**日神**分身の**稚日女**↓丹生都比売、丹生都比売神社（和歌山県）祭神↓伊射波神社（鳥羽市）祭神

3 **天照大神**、**高皇產靈**と称して高千穂宮に赴き、**葦原中つ国**平定↓**日神**に大政奉還↓**高天**との統一王朝、誓約

4 **天**（蔽）**之國**（倭）**王朝期**（二二〇年代前半〜二四〇年代後半）（**齡五十代後半で大倭纏向宮に遷座**）

纏向入りして倭の女王**ヒミコ**（日継の御子、日の巫女）に即位。亦の名は**撞賢木蔽之御魂天疎向津媛**

5 **女王退位後**、**笠縫邑**（檜原神社の鎮座地）や**伊勢五十鈴宮**では、**天照大御神**

※笠縫邑では**天叢雲劍**で以て**天照大神**を祭祀。五十鈴宮では、**天叢雲劍**で**天照大神**、**檜御柱**で**高皇產靈**を祭祀

6 **二四〇年代末**、**五十鈴宮で逝去**（享年八十歳）↓**箸墓円形部**（円壇↓五段重ね円墳）に埋葬された

7 **三〇四年二月二三日**、**鳥見山中**の祭場（桜井茶臼山古墳）で、夫の御魂と共に**皇祖天神**に配された

※内宮祭神は**天照大御神**。荒祭宮祭神は**天照坐皇大御神**荒御魂とも**天照大御神**荒御魂とも。一説では**瀬織津姫**。

内宮別宮**伊雑宮**（**天照大神**の遙宮）祭神は、**天照大御神御魂**、**相殿祭神**は**玉柱屋姫命**。廣田神社（西宮市）祭

神は**天照大御神**荒御魂（**撞賢木蔽之御魂天疎向津媛**、一説では**瀬織津姫**）。生田神社祭神は、**稚日女尊**

邪馬台三国志 下 目次

- ◇家長と祭器 ◇倭国／倭奴国の国のかたち ◇中国神話と古代史
- ◇太陽（日） 神と牛頭天王の源流
- 倭国の生い立ち** ●那珂つ国 ◇海神と不老長寿の仙薬・蓬莱郷づくり
- 天の国とオロチ敵之国王朝／太伯ら子孫と越オロチ族 ●倭国王朝の建国
- 倭奴国王朝** ●豊葦原中つ国と伊都国の王朝 ●倭奴国王朝／安曇族の渡来
- 倭国大乱と邪馬台国** ◇南伝仏教の東アジア流入 ●神国と常世づくりと伊弉諾
- ◇熊野権現 ●豊受皇太神 ●倭国大乱 ●伊弉諾の南遷 ●二人の天照大（御）神
- 東西の王朝** ●日神の出現 ●天石窟 ●オロチ退治 ●天日槍襲来
- 天照大神、高千穂宮へ／天孫饒速日の天降り
- 葦原中つ国平定 ●天孫瓊瓊杵の出現 ●皇孫火瓊瓊杵の天降りと日隈（日前）
- 日神の畿内遷座 ●天照大神（高皇産靈）の湖西高島宮と天成神道
- 倭の女王** ●倭の女王ヒミコと纏向上之宮／皇孫火瓊瓊杵の日前国西都と天孫天火明の日高見国東都
- 皇子の交換 ●女王の朝貢 ●海幸彦と山幸彦 ●内部抗争
- 火明饒速日（海幸彦）の天降り ●女王の伊勢遷座
- 日本王朝と日前の対立** ●女王トヨ ●一都七道制 ●天神火明饒速日
- 太子 磐余彦 ●景行の熊襲征伐 ●和玉 磐余彦 ●仲哀の熊襲征伐
- 天下は一つ、家は一つ（神武東征）** ●東征出發 ●筑紫国の奪還
- 新羅遠征 ●吉備征伐／高島宮／出雲征伐 ●生駒の敗北
- 熊野上陸／熊野権現の神倉山垂迹
- 日前宮の創祀／日本に迫る ●日本の降伏
- 大和朝廷の成立** ●橿原宮 ●日本武尊の北伐 ●大和朝廷のはじまり1
- 大和朝廷のはじまり2 ●皇祖天神に奉る郊祭
- ◇伊勢神宮の祭祀変遷

倭の女王

●倭の女王ヒミコと纏向上之宮／皇孫火瓊瓊杵の日前国西都と天孫天火明の日高見国東都

二二〇年代前半、纏向宮づくりが順調に進む中、奈良盆地に住む人々は待ちきれなくなって移住し始めた。そのため、唐古・鍵、大福（樞原市）などの邑々は、急に衰退したかのようになった。大物主や大己貴も、早々と工事中の新都に移り住んだ。二人はこれを契機に、天火明を倭王に押し立てたい想いに駆られた。それには、天叢雲劍を手にして祭祀権を確保しておく必要があった。その最中に、天照大神が俄かに逝ってしまった。享年七十余歳だった。

即刻、これを伝える勅使が熊野にすつ飛んで行つた。日神は熊野有馬村の花窟（三重県熊野市）近くで夫の訃報を耳にするや、急ぎ引き返して紀ノ川沿いの山道を一目散に駆け上つた。

その後の彼女は、舅や夫の大葬に忙殺されたが、一連の儀式を滞りなく済ませると、邪馬台国と高天の双方から倭の女王ヒミコに共立された。同時に、天照大神の家督一切合切を引き継いだ。

月日が経つて上之宮（巻向駅周辺、上ツ道沿いの辻・太田・巻野内地区）と呼ばれる宮殿が晴れて落成すると、素戔嗚は卿に昇つて兵主の地位に就き、邪馬台国軍を一手に握つた。併せて布都御魂劍の威光の下で、親衛隊を率いて女王と宮殿の警護にあつた。太夫となつた大己貴も、射楯ただの神として都周辺や市場近辺に数多の将兵を繰り出し、治安維持に目を光らせた。

所造天下策に沿い、大倭日高見国を建てた天火明は、尾張真清田に乗り込むや、東海の大倭族に服従を誓わせる一方、海神・大山祇・女神大山祇一門を駿河や伊豆に続々と送り、東勢に備えた。

女王を守護する体制は都を幾重にも取り巻き、厳重を極めていた。ざっと見渡しただけでも、都の北に大倭家、東と南に大神氏や三輪氏、金剛山東麓に味スキ高彦根、御所に八重事代主、丹波亀岡・山城、湖西比叡連峰東麓に素戔嗚の孫大山咋、難波に住吉大神、摂津・東播に大山祇、紀伊

に五十猛(天日槍)、湖西北良山系嶽山周辺・伊勢二見に天照大神の児猿田彦、丹後宮津に天火明率いる海部家分家、尾張真清田に天火明率いる海部家本家というものものしきだった。

〔大神(おおみわ) 神社〕(奈良県桜井市三輪)、祭神は、大物主大神。

〔大和(おおやまと) 神社〕(天理市)、中殿に大国御魂神、左殿に八千戈神、右殿に御歳神を祀る。

〔日吉(ひよし) 大社 東本宮〕(滋賀県大津市坂本)、祭神は、大山咋神。

〔松尾(まつのお) 神社〕(京都市西京区嵐山)、祭神は、大山咋神、中津島姫(市杵島姫)命。

〔白髭(しらひげ) 神社〕(滋賀県高島市)、祭神は、猿田彦命。

〔伊太祁曾(いたきそ) 神社〕(和歌山市伊太祁曾)、祭神は、五十猛命。かつて日前神宮の地に鎮座。

〔真清田(ますみだ) 神社〕(愛知県一宮市真清田)、祭神は、天火明命。神紋は、竹の輪に九枚笹。

境内由緒に、「祭神天火明命は、天孫瓊瓊杵の御兄神に坐し国土開拓、産業守護の神として御神徳弥高く、尾張国はもとより中部日本今日の隆昌を御招来遊ばされた貴い神様」とあるそう。

この時期つまり三世紀前半に、纏向に突如として巨大な都市が出現した。その大きさは巻向駅を中心にして東西二キロ、南北一・五キロ、広さ四平方キロに及び、唐古・鍵や吉野ケ里をはるかに凌いで邪馬台国時代の最大都市に発展していく。この都市が拡大する頃、纏向に最古の纏向石塚古墳が造られた。その後、南の箸中地区でも、矢塚古墳、勝山古墳、東田大塚古墳、ホケノ山古墳など纏向型と呼ばれる出現期大型前方後円墳が矢継ぎ早に築造された。

〔纏向遺跡〕(奈良県桜井市)、三世紀に始まる遺跡で、ここから一万枚以上の檜矢板を打ち込んだ大溝、多量の土器が出た。その中には、南関東・東海・北陸・近江・出雲・西瀬戸内海沿岸の土器が一五〜二〇%も占める。その半数近くが東海系の土器、ついで出雲系が多い。

巻向駅北の辻地区(箸墓古墳の北一キロ)から、ヒミコの宮殿と思しき三世紀前半の大型建物跡二が出土し、祭祀に用いられた二千個を越す桃の種・大量の土器、木製品も見つかった。